

“水と人々の暮らし” を展示の主テーマにしています。

水に囲まれた神栖。二つの地形模型は、水とともに歩みながら、昭和 35 年(1960)に始まった鹿島臨海工業地帯造成事業により^{へんぼう}変貌をとげてきた神栖市の姿を比較します。

「市を拓く」^{ひら}

現在の姿

人々は豊かな水の恵みを受けながら、水との厳しい闘いを繰り返し、水辺を開拓しました。



鹿島港



「水の郷」^{さと}

明治 18 年(1885)を再現

水に囲まれた市域と砂丘のオアシスと親しまれた旧神之池^{ごうのいけ}の姿がよくわかります。



旧神之池



※表紙下は、屋外展示の息栖神社「忍潮井」。